

FUJITSU Software NetCOBOL

ライセンス : Windows (32bit)

2021年7月20日時点

Windows (32bit)は、購入製品が開発環境製品か運用環境製品かによってライセンスの考え方、購入方法が異なります。

1. 開発環境製品	2
1.1 開発環境製品を新規に購入する場合	2
2. クライアント運用環境製品	3
2.1 クライアント運用環境製品を新規に購入する場合	3
3. サーバ運用環境製品	4
3.1 サーバ運用環境製品を新規に購入する場合	4
4. オプション製品	6
4.1 オプション製品を新規に購入する場合	6
5. 注意事項	7
5.1 旧製品(PowerCOBOL85、PowerCOBOL97、NetCOBOL 旧バージョン製品)をご使用の場合	7
5.2 旧製品との互換性	7
5.3 開発環境製品を運用環境として利用する場合	8
5.4 リモートデスクトップサービスを利用する場合	8
5.5 サーバ上で複数の NetCOBOL 製品を使用する場合	9
5.6 クラスタシステムにおける製品のライセンス	9
5.7 クライアント仮想化環境における製品のライセンス	10

1. 開発環境製品

1.1 開発環境製品を新規に購入する場合

ライセンス

開発環境製品の購入の考え方を以下に示します。

- メディアパックは、DVD-ROM 媒体だけの提供です。
メディアパックには、使用権は添付されていないので、別途ライセンスの購入が必要です。
- ライセンスは、本製品を使用するマシンの台数分の購入が必要です。

開発環境

Windows (32bit) NetCOBOL では、お客様の用途に合わせて、以下の開発環境製品を用意しています。各開発環境製品が提供している機能については、[機能一覧](#)を参照してください。

製品名	製品概要
NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ (32bit)	COBOL コンパイラ、デバッガなど COBOL アプリケーションを作成できる開発環境
NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (32bit)	きめ細やかな帳票印刷、画面操作、Web 業務など本格的なビジネス基幹アプリケーション開発環境
NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit)	設計から保守にわたる開発のライフサイクル全般を支援する統合開発環境
NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit)	大規模基幹システム構築用の総合開発環境

2. クライアント運用環境製品

2.1 クライアント運用環境製品を新規に購入する場合

ライセンス

クライアント運用環境製品の購入の考え方を以下に示します。

- メディアパックは、DVD-ROM 媒体だけの提供です。
メディアパックには、使用権は添付されていないので、別途ライセンスの購入が必要です。
- ライセンスは、本製品を使用するマシンの台数分の購入が必要です。

製品種別

開発環境製品で作成されたアプリケーションをクライアントで動作させるための運用環境製品を用意しています。

使用された開発環境製品に合わせて、クライアント運用環境製品を購入してください。

アプリケーションをサーバ上で運用する場合は、[サーバ運用環境製品](#)をご利用ください。

開発環境製品	クライアント運用環境製品
NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ (32bit)	NetCOBOL Base Edition クライアント運用パッケージ (32bit)
NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (32bit)	NetCOBOL Standard Edition クライアント運用パッケージ (32bit)
NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit)	

3. サーバ運用環境製品

3.1 サーバ運用環境製品を新規に購入する場合

ライセンス

サーバ運用環境製品の購入の考え方を以下に示します。

- メディアパックは、DVD-ROM 媒体だけの提供です。
メディアパックには、使用権は添付されていないので、別途プロセッサライセンスを購入ください。製品の導入にあたり、1 本以上のメディアパックが必要です。
- プロセッサライセンスは、本製品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下の通りに必要となるライセンスです。
 - シングルコアプロセッサの場合：1 プロセッサあたり 1 本の購入が必要です。
 - マルチコアプロセッサの場合：コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。[\(注 1\)](#)

注 1) CPU 数、コア数などにより、プロセッサライセンスの数が異なりますので、必要ライセンス数については営業へご相談ください。

物理サーバーや仮想サーバー、オンプレミスやクラウドサービスなど、それぞれの利用形態における必要なライセンス数の算出方法については、[「必要なライセンス数の算出方法」](#)を参照してください。

クラスタシステムにおける製品のライセンスについては、[「クラスタシステムにおける製品のライセンスについて」](#)を参照してください。

製品種別

開発環境製品で作成されたアプリケーションをサーバで動作させるために、運用環境製品を用意しています。
使用された開発環境製品に合わせて、サーバ運用環境製品を購入してください。

開発環境製品	サーバ運用環境製品
NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ (32bit)	NetCOBOL Base Edition サーバ運用パッケージ (32bit)
NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (32bit)	NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ (32bit)
NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit)	
NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit)	NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ (32bit)

注) MeFt/Web 等の Web アプリケーションの場合は、サーバ運用環境製品のみで動作可能で、クライアントライセンスは不要です。

4. オプション製品

4.1 オプション製品を新規に購入する場合

ライセンス

オプション製品の購入の考え方を以下に示します。

- メディアパックは、CD-ROM 媒体だけの提供です。
メディアパックには、使用権は添付されていないので、別途ライセンスの購入が必要です。
- ライセンスは、本製品を使用するマシンの台数分の購入が必要です。

製品種別

NetCOBOL JEF オプション (32bit)は、NetCOBOL Base/Standard/Professional/Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit) のオプション製品です。

NetCOBOL JEF オプション 運用パッケージ (32bit)は、NetCOBOL Base/Standard/Enterprise Edition サーバ運用パッケージ (32bit) および Base/Standard Edition クライアント運用パッケージ (32bit)のオプション製品です。

製品名	製品概要
NetCOBOL JEF オプション (32bit)	NetCOBOL(32bit) 本体製品に追加することで、NetCOBOL の動作コード系を EBCDIC/JEF とするアプリケーションを作成できます。
NetCOBOL JEF オプション 運用パッケージ (32bit)	NetCOBOL(32bit) 本体製品に追加することで、NetCOBOL JEF オプション (32bit)で作成したアプリケーションを運用することができます。

5. 注意事項

64ビットアプリケーションを開発および運用する場合は、64ビット版NetCOBOL商品を別途、購入してください。
32ビット版と64ビット版は、同じコンピュータにインストールして利用する事ができます。その場合は、両方のメディアパックとライセンスをそれぞれ必要数分購入してください。

5.1 旧製品(PowerCOBOL85、PowerCOBOL97、NetCOBOL 旧バージョン製品)をご使用の場合

最新の NetCOBOL 製品は、従来の製品の機能を包含しており、互換性を保っております。従来の製品をご使用のお客様は、最新の NetCOBOL 製品へバージョンアップすることをお勧めします。

[旧製品との互換性](#)

バージョンアップする場合

NetCOBOL シリーズ V8.0 以降は、サポート契約されているお客様のみバージョンアップ（無償）が可能です。サポート契約されていないお客様は、新規購入となります。ご注意ください。

| [「SupportDesk」のご紹介](#) | [SupportDesk「お客様専用ページ」](#) |

注意事項

Windows(32bit)の旧バージョンからのみバージョンアップが可能です。

Base Edition から Standard Edition へのアップグレードなどの Edition アップグレード手配はご用意していません。このような場合、新規に製品をご購入願います。

JEF オプションをバージョンアップする場合

旧バージョンの JEF オプションをご購入されているお客様に新バージョンを安価でご購入頂くためにバージョンアップキット製品を用意しています。旧バージョンの JEF オプションをご使用の場合は、[バージョンアップ製品](#)を参照してください。

5.2 旧製品との互換性

Windows (32bit)では、旧製品(PowerCOBOL97)の機能を包含しており、基本的に互換を保っておりますが、一部マニュアルどおり作成しない場合など COBOL アプリケーションが正しく動作しない場合があります。

互換に関する情報については、製品ドキュメントの「リリース情報」を参照してください。

資産移行

上記のとおり、旧製品の機能を包含しており、同レベルの製品間での COBOL ソースなどの資産はそのまま利用することができます。また、旧製品で作成した COBOL アプリケーションは、リコンパイルなしで、動作可能です。[\(注1\)](#)

注 1) V11.0 以降では、使用する Microsoft 社製リンカの変更により、ASCII 範囲外の文字を含む外部名を持つプログラムおよびこれ呼び出すプログラムはリコンパイルが必要になる場合があります。詳細は製品ドキュメントの「リリース情報」の「互換に関する情報」をご確認ください。

5.3 開発環境製品を運用環境として利用する場合

開発環境製品には、運用環境用のライセンスは含まれておりません。このため、開発環境がインストールされているマシンを運用環境として利用する場合、別途、運用環境製品およびライセンスの購入が必要になります。

- 開発環境製品の中には、作成したアプリケーションを運用するための環境（サーバ用、クライアント用とも）も含まれています。これは、開発環境で作成したアプリケーションを動作確認するためのものであり、動作確認、テストを実施する場合は、運用環境ライセンスを購入して頂く必要はありません。
- 開発環境製品の中には、作成したアプリケーションを運用するための環境も含まれているため、購入した運用環境を新たにインストールする必要はありません。

5.4 リモートデスクトップサービスを利用する場合

ここでは、Windows Server 2012 以降のリモートデスクトップサービスを総称して「**リモートデスクトップサービス**」と呼びます。

- 開発時に利用する場合、同時に使用するクライアント台数分、[開発環境製品](#)の購入が必要です。
- 運用時に利用する場合、同時に使用するクライアント台数分、[クライアント運用環境製品](#)の購入が必要です。ただし、Enterprise Edition では、利用できません。
- リモートデスクトップサービスを使用、かつサーバ上で COBOL アプリケーションを開発/運用する場合、リモートデスクトップサービス利用時に必要なライセンスの他に、別途サーバ自身のライセンスが必要です。
 - サーバ上で開発する場合、リモートデスクトップサービス利用時に必要なライセンスの他に、開発環境製品の購入が必要です。
 - リモートデスクトップサービス以外にサーバ運用を実施する場合、リモートデスクトップサービス利用時に必要なライセンスの他に、サーバ運用環境製品の購入が必要です。
- サーバへ NetCOBOL 製品をインストールする際の留意事項は、[サーバ上で複数の NetCOBOL 製品を使用する場合](#)を参照願います

- サーバ運用パッケージをインストールしたサーバ環境において COBOL アプリケーションを運用し、かつ、リモートデスクトップサービスを使用して COBOL アプリケーションを運用する場合、以下の製品を購入する必要があります。
 - サーバ運用パッケージのメディアパック製品
 - サーバに搭載されているプロセッサ(CPU)の総数に応じたサーバ運用パッケージのプロセッサライセンス
 - クライアント運用パッケージのメディアパック製品
 - リモートデスクトップサービスを同時に利用するクライアント台数分のライセンス

5.5 サーバ上で複数の NetCOBOL 製品を使用する場合

- **リモートデスクトップサービスを使用せずに、サーバ運用環境製品とクライアント運用環境製品を同一サーバで使用する場合**
 クライアント運用環境製品は、クライアント側からサーバ運用環境製品とは別のフォルダにインストールしてください。
- **リモートデスクトップサービスを使用して、複数の NetCOBOL 製品を組み合わせて使用する場合**
 サーバでは、リモートデスクトップサービスとは異なる製品を使用して、COBOL アプリケーションを開発、運用することが可能です。製品のインストールは、以下のようになります。この場合、リモートデスクトップサービス用のライセンスの他にサーバ用のライセンスが別途必要となります。

リモートデスクトップサービスから使用する製品	サーバ環境で使用する製品	
	開発環境製品	サーバ運用環境製品
開発環境製品	サーバにインストールした開発環境製品を、リモートデスクトップサービスを利用して、COBOL アプリケーションの開発ができます。	開発環境製品のみをインストールするだけで、サーバにおける COBOL アプリケーションの運用とリモートデスクトップサービスを利用した COBOL アプリケーションの開発ができます。
クライアント運用環境製品	開発環境製品のみをサーバにインストールするだけで、サーバにおける COBOL アプリケーションの開発とリモートデスクトップサービスを利用した COBOL アプリケーションのクライアント運用ができます。	サーバ運用環境製品のみをサーバにインストールするだけで、サーバにおける COBOL アプリケーションの運用とリモートデスクトップサービスを利用した COBOL アプリケーションのクライアント運用ができます。

5.6 クラスタシステムにおける製品のライセンス

Windows (32bit)の NetCOBOL のサーバ運用環境製品は、クラスタ構成されたシステムで運用できます。

相互待機形態(Active/Active)で運用する場合は、各サーバに製品を購入する必要があります。

運用待機形態(Active/Passive)で運用する場合は、運用系ノード分のプロセッサライセンスを購入してください。待機系ノード分のプロセッサライセンスの購入は不要です。通常運用時に待機ノードとなっているサーバには、運用ノードで購入したプロセッサライセンスをご利用ください。

5.7 クライアント仮想化環境における製品のライセンス

Windows (32bit) V12.0.0 以降の NetCOBOL の開発環境製品 および クライアント運用環境製品は、クライアント仮想化された環境で運用できます。

- 開発時に利用する場合、仮想 PC が定義されたサーバに接続するクライアント PC の台数分、[開発環境製品](#)のライセンス購入が必要です。
- 運用時に利用する場合、仮想 PC が定義されたサーバに接続するクライアント PC の台数分、[クライアント運用環境製品](#)のライセンス購入が必要です。ただし、Enterprise Edition では、利用できません。

購入したライセンスで当該クライアント PC 自身へのインストールも可能です。